

平成 31 年度使用高等学校
(第 1 部)
教科書編集趣意書
芸術 (美術Ⅲ) 編

目次

	ページ
116 日文 高校美術 3	1

発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名
116 日 文	美 302	高校美術3 代表著作者 原 研哉 近藤幸夫

1. 編集の基本方針

学習指導要領「美術」に示されている各事項に準拠し、「美術」「美術」の学習の基礎の上に立って、より深く専門的に美術が理解できるよう内容の充実を心掛けました。

美術を学ぶことで将来どのような進路が開けるのか理解できるように美術に関わるさまざまな職業を取り上げました。職業の説明は、現在それぞれの分野で活躍する美術家、デザイナー、映像作家、研究者などの優れた作品や仕事を通して行い、仕事の内容が魅力的に詳しく理解できるようにしています。

多様な職業を取り上げることによって教科書全体から美術の幅広い豊かな世界が概観できるようにしました。また個々の作品の発想から完成に至る過程を詳しく紹介することによって、作者の意図や制作方法が具体的に理解できるようにしました。

ページを構成するにあたっては、取材活動を積極的に行い、インタビュー等を通して生の声を聞き出し、写真撮影するとともに、スケッチや関連する資料等の提供を受け、作品制作や仕事に取り組む姿が明確に伝わるようにしました。

生徒の学習意欲の向上を図るため、分かりやすく魅力ある教科書となるように努めました。図版を精選し、丁寧な解説を付し、理解しやすい表現を心掛け、美術の教科書に相応しい充実した内容になるように心掛けました。

2. 編集上特に留意した点と特色

(1) 美術に関係するさまざまな職業を通して学ぶ。

画家、彫刻家、デザイナー、CMディレクター、アニメーション監督、美術史家、修復家など美術に関係する幅広い職業を詳しく紹介し、それぞれの職業における仕事の内容を理解することが、美術の学習の理解を深めるという関係を持つように工夫しました。具体的にはデザインではグラフィック、プロダクト、ファッション、照明などさまざまな分野の仕事を取り上げ、それぞれの仕事の理解がデザインの各分野の理解に結びつくよう配慮しています。

(2) 第一線で活躍する美術家やデザイナー、映像作家の表現から学ぶ。

「美術」の学習に必要な高い専門性や深い内容を、今日それぞれの分野で活躍する美術家やデザイナーなどの仕事から学び取れるように工夫しています。エスキースやアイデアスケッチを多数掲載し発想の源が理解できるようにするとともに、表現方法や制作過程についても図版や写真で丁

寧に説明し授業に役立つようにしました。

(3) 身近な材料から独創的な表現を生み出す。

生徒が創造活動を身近に感じ取れるよう、鉛筆だけを用いて緻密な大作を描く絵画、新聞紙とガムテープによる独創的な立体作品、安価に入手できる紙管を用いて作る被災地の仮設住宅、日常的な感性を大切に写す写真などの題材を取り上げ、特別の材料や条件がなくても独創的な新しい表現が生み出せることを理解できるようにしました。

(4) 新しい時代の感性と伝統を大切に作る心とともに養う。

現代美術やデザインの新しい傾向を積極的に取り上げ、これからの時代を生きる生徒に必要な感性が身に付くように配慮しました。同時に伝統的な美意識を現代に生かす染織家や、文化財を後世に伝える役割を持つ修復家、美術史家などの仕事も取り上げ、美術の世界の広がりや奥行きを感じ取れるようにしています。

3. 教科書の内容と学習指導要領との関連

学習指導要領の内容		関連する本書の内容
A 表現	(1) 絵画・彫刻	「美術家」「画家」「版画家」「彫刻家」などの題材を設定しています。現代美術の新しい傾向から写実的表現まで幅広い表現が理解できるように、それぞれの題材において作者の制作意図を丁寧に説明しています。また、それぞれの作品の制作過程が理解できるように、図や写真を用いて技法などを分かりやすく説明しています。
	(2) デザイン	「グラフィックデザイナー」「絵本画家」「プロダクトデザイナー」「ファッションデザイナー」「照明デザイナー」「建築家」「植物アーティスト」など多様な題材を設定し、生活や社会と密接に関わるデザインの全体像が把握できるようにしています。それぞれの職業や仕事を通して目的や条件、機能や構造、材料や技法などデザインの内容が総合的に理解できるようにしました。また、自然の植生を生かしたデザイン、災害などに対応するデザインも取り上げ、デザインの社会貢献についても理解できるようにしています。
	(3) 映像メディア表現	「写真家」「美術家」「CM ディレクター」「アニメーション監督」などの題材を設け、映像メディア表現が社会に果たす役割や、その特性を生かした表現が理解できるようにしています。「CM ディレクター」「アニメーション監督」のように多くのスタッフや出演者をまとめ総合的に指揮をとる仕事とともに、自分の感性を表現するために作品をつくる「写真家」や「美術家」なども取り上げ、幅広く映像メディア表現が理解できるようにしています。
B 鑑賞	傷んだ作品を直す「修復家」、伝統的な染の技術を継承する「染織家」、現代的で斬新な表現を追求する「美術家」など多様な鑑賞題材を設けています。また、美術の歴史を研究する「美術史家」、画廊を経営し優れた新人を発掘する「ギャラリスト」など美術を支える仕事も資料として取り上げました。	